

令和5年度事業報告

令和5年度は、令和5年3月の第25回理事会の議決を経た事業計画に基づき、研修、橋梁保全に関する調査研究、シンポジウム、講演会、助成、国内外の支援活動、広報及び橋梁の診断業務等を実施した。

1 実施事業等

1-1 研修等

(1) 道路橋点検士技術研修会

道路橋の点検を担う技術者の更なる技術力の向上や点検結果の精度・信頼性の確保を図るため、令和5年度に道路橋点検士技術研修会を6回実施した。研修修了者は736名で、平成6年度からの累計開催数は123回、累計研修修了者は16,534名となった。なお、受け付け可能な受講者数はコロナ禍前である令和元年度にまで回復することができた。

また、道路管理者を対象とした道路橋点検技術講習会を1回開催し、32名が受講した。

(2) 道路橋点検士制度

道路橋点検士技術研修会を修了した技術者に対して、道路橋点検士および道路橋点検士補の登録申請を受け付けた。申請を審査し、登録した状況は以下のとおり。

	登録者数		国土交通省登録資格
	令和5年度	累計	
道路橋点検士	587名	9,093名	平成27年1月登録 令和2年2月更新
道路橋点検士補	80名	1,404名	平成28年2月登録 令和3年2月更新

道路橋点検士及び道路橋点検士補の更新期限（研修修了した年度の翌年度から4年間）を迎える技術者を対象とする道路橋点検士更新講習会を開催した。令和5年度は平成28年度から令和元年度に登録された道路橋点検士と道路橋点検士補、及び令和元年度に登録を更新した道路橋点検士と道路橋点検士補を対象とし、1,669名が受講した。なお、受講者の移動負担の軽減を図るため、インターネットを活用したオンライン講習にて実施した。

さらに、道路橋点検士委員会において道路橋点検士技術研修会と同等であると認定された他機関が実施する道路橋の点検に関する研修等の合格者等のうち、受験希望者に対し道路橋点検士補検定試験を1回実施し、7名が合格しその後の申請により5名の道路橋点検士補の登録を行った。

1-2 自主研究

(1) 橋梁保全に関する調査研究

平成30年度より実施しているAIを活用した道路橋メンテナンスの効率化に関する共同研究は、令和5年度に終了した。これまでに、診断における知識や思考方法をフローチャート化した診断のロジックを作成し、エキスパートシステムである橋梁診断支援AIシステムを構築した。

平成23年3月11日東日本大震災により甚大な被害を受けた三陸沿岸市（岩手県宮古市、釜石市、陸前高田市、宮城県気仙沼市）の震災伝承施設や復旧・復興事業の現場を視察し、激甚災害被害の実態把握や教訓を学んだ。

令和4年度に立ち上げた「道路橋データベースの利活用に関する検討委員会」において、道路橋データベース利活用促進に向けての課題や今後の方向性についてとりまとめを行った。

(2) 国際会議等への参加

以下の国際会議等に役職員を派遣し、海外の橋梁事業調査、インフラ維持管理技術等に関する意見交換、情報収集を行った。

会議名	日程	会議・視察場所
International Bridge Conference 2023	6月11日～19日	ワシントンDC、 サンフランシスコ(アメリカ)
IABSE Congress 2023 New Delhi	9月18日～27日	デリー(インド)、 ダッカ(バングラデシュ)
27th World Road Congress	9月30日～10月12日	プラハ(チェコ)、 イスタンブール(トルコ)

なお、27th World Road Congress においては、展示ブースを出展し、橋梁調査会が実施している事業について広報を行った。

(3) 橋梁シンポジウム

橋梁に関心のあるすべての方を対象に開催している「橋梁シンポジウム」は、講演テーマを「DX時代の橋梁維持管理」とし、基調講演は横浜国立大学名誉教授の山田均氏により「DX時代の耐風応答分析」と題し実施した。さらに、国土交通省大臣官房参事官、建設コンサルタンツ協会、日本橋梁建設協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会による講演を行った。

開催方式は会場開催とライブ配信のハイブリッド方式とし、会場参加者は73名、視聴者は622名となった。また、希望者260名へCPD登録のための受講証明書を発行した。

(4) 賛助会員特別講演会の開催

平成 25 年度より賛助会員を対象として、橋梁調査会の取組みと時事テーマを取り上げた講演会を開催している。令和 5 年度は、会場開催と録画配信とのハイブリッド方式で、筑波大学名誉教授の石田東生氏により「道路政策とイノベーション」をテーマとして講演を実施した。会場参加者は 73 名で、賛助会員専用ホームページにて講演の動画を公開した。

(5) 橋梁メンテナンスセミナー

賛助会員を対象として、橋梁のメンテナンスに関する情報提供とともに、実務で感じられている課題を共有し、その理解と問題の解決を図っていくことを目的とし、橋梁メンテナンスセミナーを開催している。令和 5 年度は、点検支援技術に関して、国土交通省関東道路メンテナンスセンター、およびカタログ掲載技術を有する賛助会員の技術について話題提供をしていただき、その後デスクッションを行った。

開催方式は会場開催とライブ配信のハイブリッド方式とし、会場視聴者は 7 名、オンライン視聴者は 124 名となった。また、希望者 61 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

(6) 助成

橋梁技術に関する研究開発に関して公募し、優秀な研究計画と認められた次の 3 研究テーマに対して、当該研究開発に要する費用の一部を助成した。

- ・ AI 画像処理を用いたナット回転履歴によるボルトの緩み検知
- ・ 補修・補強で用いられる高力ボルト引張接合継手の疲労強度評価と既存疲労照査法の改良
- ・ けい酸塩系表面含浸工の施工効果に基づく費用対効果

(7) 国際支援活動

JICA が実施する国際協力研修に講師を派遣した。

研 修 名	時 期	研修 参加人数
課題別研修「橋梁総合」	9 月 29 日	11 名

1-3 広報

(1) 機関誌「J_BEC レポート」の刊行

機関誌「J_BEC レポート」Vol.19 を刊行した。約 2,000 部印刷し、賛助会員はじめ関係者へ配布した。

(2) 各種国内会議・イベント等への協力

各地方整備局等が主催する建設技術展等のイベントに参加し、橋梁の点検・診断

技術や点検支援技術等に関する発表を行うとともに展示を行った。

また、「建設技術フェア 2023in 中部」や「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 2023」等への後援、「第 5 回橋梁・トンネル展」等への協賛を行った。

(3) ホームページを活用した広報

ホームページを橋梁に関する技術者だけでなく、一般の方にも利用しやすいようリニューアルした。

2 その他事業

2-1 調査研究業務

(1) 橋梁の診断業務

直轄国道の橋梁に対して、国土交通省の「道路橋定期点検要領（平成 31 年 2 月）」及び「橋梁定期点検要領（平成 31 年 3 月）」に基づき、現地にて状態の把握を行った上で対策区分の判定及び健全性の診断を行う橋梁診断業務を実施した。

(2) 橋梁の補修・補強に関する業務

中国地方整備局管内の国が管理する橋梁について、過年度の直轄橋梁メンテナンスデータ(点検・診断・補修等)の分析結果より損傷の多い伸縮装置等からの漏水について状況把握・分析を行うとともに補修工事事例の調査を行うことで、メンテナンスサイクルの高度化・効率化のための提案業務を実施した。

(3) 総合評価落札方式による工事発注のための技術支援業務

四国地方整備局が実施する総合評価方式による橋梁工事について、入札評価手続きに関する支援業務を実施した。

(4) 新技術を活用した道路橋の点検支援に関する業務

令和 5 年度新技術導入促進計画における技術テーマのうち「橋梁の点検支援技術」について、当該技術分野に精通する専門家等からなる技術検討委員会の設置・運営等を行い、審議を通じて助言を得ながら技術の公募や確認(実証)を行った。さらに、現場実装を促進するために実証実験を経た技術について点検支援技術性能カタログへ掲載するためのとりまとめを行った。これまでの掲載数は平成 30 年度からの累積で 179 技術となった。

新たな技術テーマとして、災害発生時(地震、豪雨など)に車両の通行可否などを把握したり、構造物の耐荷力不足の兆候や異常などを検知したりするなどの「道路構造物の計測・モニタリング技術」について、これらの技術導入を促進するためのガイドライン(案)の作成を目的とする検討を行った。

(5) 道路橋維持管理施策に関する業務

道路メンテナンス年報の作成にかかる点検実施率、点検実施橋梁の修繕等措置の状況、修繕等が必要な判定区分の遷移等のデータ整理を実施した。

(6) 道路橋データベースに関する業務

全国道路施設点検データベース（道路橋）について、データ登録、帳票作成、出力機能の改良を行った。また、データ閲覧・取得するための公開用 API と、データ登録するための登録用 API を追加実装した。

さらに、これまでに構築したデータベースでのデータ構成を見直し、最適化を図るよう検討を行った。

(7) 地方公共団体等の道路橋維持管理に関する支援業務

島根県等地方公共団体が実施している橋梁の維持管理全般を支援するために、橋梁の点検・診断、補修・補強に関する諸問題に対してアドバイスを実施した。

2-2 道路橋データベースの管理運営

令和4年度より道路橋の諸元・点検結果に関するデータの閲覧・取得サービスと点検結果等登録についてサービスを開始しており、令和5年度では通年でこれらのサービスの提供を行った。また、一般の閲覧・取得ユーザに対しては、ニーズにあわせ全国版と地域版の提供を行うようにした。

有償データの閲覧・取得は、全国版が66ユーザ、地域版が85ユーザの利用があった。

登録サービスについては、国が管理する道路橋の定期点検結果等について、のべ353ユーザの利用があり、定期点検や第三者被害予防措置等に関する14,821橋分のデータが登録された。

2-3 人材育成支援業務

国土交通省及び地方公共団体の職員を対象とした橋梁の維持管理等に関する研修を支援した。

2-4 出版

「道路橋の補修・補強計算例Ⅱ」他の図書の販売を行った。

3 その他

3-1 会議の開催

(1) 理事会

第26回理事会 令和5年6月2日（Web会議併用による決議）

決議事項：令和4年度事業報告(案)及び決算(案)について
第12回定時評議員会の招集について
報告事項：職務執行状況の報告について

第27回理事会 令和5年6月22日 (Web会議併用による決議)
決議事項：理事長及び専務理事の選定について
顧問の委嘱について

第28回理事会 令和6年3月19日 (Web会議併用による決議)
決議事項：令和6年度事業計画(案)及び予算(案)について
報告事項：職務執行状況の報告について

(2) 評議員会

第12回評議員会 令和5年6月21日
決議事項：令和4年度決算の承認について
評議員の選任について
理事及び監事の選任について
評議員、理事及び監事報酬規定の改定について
常勤の理事に対する一時金の支給について
報告事項：令和4年度事業報告について

3-2 職員の技術力向上

(1) 技術会議等への参加

技術力向上のため、日本道路会議等の技術会議に職員を参加させた。

(2) CPD取得

職員自らの技術力維持向上のため継続学習を支援し、CPD取得を奨励した。

事業報告に係る附属明細書

1. 事業報告の内容を補足する重要な事項
該当する事項はありません。

令和 6 年 6 月

一般財団法人 橋梁調査会